

# 2023 年グアテマラ大統領選挙と 新政権が直面する問題

Guatemala's Presidential Election in 2023 and Problems Facing the  
New Government

中原 篤史

NAKAHARA, Atsushi

## 要 約：

政治腐敗・汚職対策が有権者の主要な関心事であった 2023 年のグアテマラ選挙では、腐敗政治撲滅のための改革を訴えたアレバロ候補がサプライズと受け止められるなかで勝利した。しかし、その選挙期間中、アレバロと所属するセミージャ党に対しては司法から露骨な干渉が行われ、軍政以降の近年では最も見苦しい選挙となった。それだけではなく、選挙後もアレバロ支持者やグアテマラの民主主義を憂いた市民団体などによる行政府・司法府に対する抗議活動により内政が混乱している。本稿では今回の大統領選挙を概観し、その背景と新政権が直面する問題について考察する。

キーワード：グアテマラ、大統領選挙、コオプタシオン、腐敗・汚職

## はじめに

8月20日実施の大統領選挙決選投票の結果、セミージャ党（Movimiento Semilla: MS）のベルナルド・アレバロ（Bernardo Arévalo）候補が勝利した（写真1）。アレバロは職業外交官で外務副大臣やスペイン大使などを歴任した国会議員であり、実父のフアン・アレバロ（Juan José Arévalo）は、長期独裁政権（1931～44年）の後、民主的に選出された大統領（1945～51年）であった。一方で、社会民主主義的政策のMSという少数政党の候補で、泡沫候補と見られていた。しかし、6月25日の総選挙（第1回投票）では、主要な世論調査結果に反して2位につけ、そのまま8月20日の決選投票でも勝利した。その背景には、(1) イデオロギーは関係なく、グアテマラ政治を取り巻く、新旧オリガルキー、元軍人グループなど支配階層による根深い腐敗問題と(2) それらから影響を受けている選挙関係機関による有力候補潰しといった民意とはかけ離れた政争がある。今回の選挙結果は、これらを忌避し、政治改革を実現するアウトサイダーを求めた多くの有権者の意思表示と見られている。

本稿ではこうした背景と今回の大統領選挙を概観し、アレバロ新大統領の政策と直面する問題について若干の私見を述べたい。



写真1 支持者を前に演説する当選したアレバロ（2023年9月18日 ロイター/アフロ）。

## 1. 「コオプタシオン」—為政者に取り込まれる司法府と選挙関係機関

グアテマラは内戦終結後も軍が政治に影響力を維持し、民主主義の脆弱性が指摘されていた。選挙に関しても、為政者が選挙実施機関である最高選挙裁判所（Tribunal Supremo Electoral: TSE）や最高裁判所などの機関に影響力を行使できるような人材を配置する、「取り込み」を意味する「コオプタシオン」（Cooptación）によって自律性に疑問が呈されていた。

モラレス（Jimmy Morales）政権（2016～20年）はテレビタレント出身で、既存の腐敗政治家ではない「汚職とは最も遠い」大統領候補として登場し、決選投票で勝利した。しかし、就任直後、選挙資金の不正を理由に大統領本人や側近の親族、与党議員が検察によって刑事告発された。タレント出身で政治基盤もなかったモラレス大統領は、結局は政権維持のため、伝統的な支配階層（オリガルキー）、保守系政党・議員とのつながりを強めた。選挙関連組織でも、TSEの判事は国会で選出される際に水面下で各党の交渉により配分された与党系の判事で占められていたことから明らかである。その結果、2019年の大統領選挙では、選挙期間中にもかかわらず、腐敗と闘った前検察長官など野党系の有力候補が次々に立候補停止に追い込まれ、ジャマテイ（Alejandro Giammattei）大統領（2020～24年）が勝利した（表1）。

表1 2015年以降の大統領選挙（総選挙・決選投票）結果

選挙年	決選投票進出候補	政党	得票率（%）	
			第1回	第2回
2015年	モラレス	国民集中戦線（FCN）	<b>23.85</b>	<b>65.48</b>
	トーレス	国民希望党（UNE）	19.76	34.52
2019年	ジャマテイ	バーモス党（VAMOS）	12.96	<b>57.95</b>
	トーレス	国民希望党（UNE）	<b>22.08</b>	42.05
2023年	アレバロ	セミージャ党（MS）	11.74	<b>58.01</b>
	トーレス	国民希望党（UNE）	<b>15.97</b>	37.24

（出所）グアテマラ最高選挙裁判所ウェブサイト<sup>1</sup>を基に筆者作成（2023年9月1日閲覧）。

## 2. 2023年大統領選挙

### （1）グアテマラ大統領選挙の特徴

近年のグアテマラ大統領選挙には、いくつかの特徴がある。少数政党の乱立や、民意から乖離した選挙を通じた政治取引などである。今回の第1回投票選挙当日（6月25日）は過去最多の22人

<sup>1</sup> 同サイト (<https://www.tse.org.gt/>) はグアテマラ国内ではアクセス可能だったが、日本からはアクセス不可能となっている。

が乱立した。グアテマラでは、政党政治が脆弱であり、政党政治以上に、その時の政治指導者によって政治家や官僚は政治的利益を求めて雲集霧散する。そして、近年の大統領は、利権や非合法活動への庇護を求める元国軍高官、汚職国会議員グループ、伝統的オリガルキー、新興民間セクター、麻薬組織などと裏でつながり、コオプタシオンを形作ってきた（表 2）。政党乱立のため大統領選挙では、1 回目の投票では票が割れ、上位 2 名による決選投票になることが常態化している。また、与党が支持を維持できず連続勝利しない。再選が不可能なグアテマラ大統領選挙では、とくに近年は、大統領の任期中の汚職発覚などもあり政権与党は有権者からの支持が維持できず、選挙ごとに多くの政党が生まれては消えていく。軍政以降、二度大統領を出した政党はない。また、選挙への参加が、権力・国家資源へのアクセスをより容易にする手段になっている。たとえ、泡沫候補であっても自身の党を率いて大統領選挙に出馬し、また国会で議席をもてば、決選投票での自身の組織票や、少数政党乱立の国会内で支持・連立形成などを手段として、行政・立法などでのポストの配分や、合法・違法を問わず行為による国家資源へのアクセスなどがより容易になる。

表 2 グアテマラ政治に浸透する汚職・犯罪アクター

アクター	背景と活動	ターゲットにしているおもな公的部門
伝統的経済エリート	経済的利益と競争相手弱体化のため政治的影響力を行使し、選挙を避けようとする寡占企業ファミリー。	税務当局、特許庁、金融委員会
国会と地方有力政治家グループ	政府調達へのアクセスや政府ポストなどと引き換えに支持をする国会議員、地方有力政治家グループ。多くの場合、汚職官僚ネットワークが関与している。	公共事業関連省庁
新興エリート	政治的コネクションや賄賂を通じて政府契約を得たり、特権を得た比較的新しい電気通信、製薬、建設業等の創業者。	社会保障庁、通信・インフラ・住宅省、エネルギー省、環境省
違法治安維持装置	内戦時代に起源をもつ秘密ネットワーク。元国軍高官や諜報員で構成され、政府高官に浸透し、建設業や警備業等を隠れ蓑に麻薬密売や密輸などの違法行為を通じて蓄財した。	税関、内務省
麻薬密輸組織	国家機関や地方自治体に協力者を作り、法的保護やマネーロンダリングのため政府調達へのアクセスを得ている麻薬密輸組織	公共事業関連省庁、地方開発委員会、警察、国軍

（注）各アクターは特定の政党と癒着しているわけではなく、その時々で変化する。

（出所）InSightCrime の記事<sup>2</sup>を基に筆者作成。

## （2）第 1 回投票（6 月 25 日）

2023 年 6 月 25 日の総選挙（大統領・副大統領、国会議員 160 議席、地方自治体首長 340 市、中米議会議員 20 議席）は、すでにその公示前に、世論調査で支持率 1 位の候補や先住民族系の候補など有力候補に対して立候補資格が停止される異常事態のなかで行われた。このような選挙への露骨な介入はコオプタシオンが進んだ結果、近年の選挙において、より顕著になった。

総選挙の結果、大統領選挙はどの候補も過半数に満たなかったため、国民希望党 (Unidad Nacional de la Esperanza : UNE) のトーレス (Sandra Torres) と MS のアレバロによる決選投票になった。しかし、選挙期間中に、立候補資格がはく奪された有力候補らによる「無効票運動」によって、最多

<sup>2</sup> Steven Dudley, Alex Papadovassilakis, y Edgar Gutiérrez, “La perpetuación de la corrupción: el sistema que socava las elecciones de 2023 en Guatemala.” InSightCrime, 21 de junio, 2023.

得票は「無効票」で17.39%（約100万票）、「白票」も第6位の6.99%（約39万票）を得る異常な結果であった。選挙法では無効票が投票数の50%を超えた場合選挙が無効になるため、それをねらった運動であり、メディアではグアテマラの政治史上、初の出来事と報じられた。

この結果によってモリーナ大統領のころから「コオプタシオン」による歴代政権の腐敗政治で利益を得てきた各腐敗アクターは、後述する嫌トレス・嫌UNEではあるが、対立候補のアレバロ候補は、厳格な犯罪・汚職対策を訴えているため自身が脅かされることになり支持できず、ジレンマに陥ることになった。

そのため選挙後、腐敗アクターとつながりのある与党のバーモス（VAMOS）党、UNEなど9つの既存政党が、選挙の無効やアレバロ当選阻止を企図して、憲法裁判所に対して選挙結果に透明性が欠如している、つまり不正の可能性があるとして異議申立てを行った。受理した憲法裁判所はTSEに大統領選挙結果の発表を保留し、再集計を命じる裁定を下した。しかし、選挙結果が覆ることはなかった。12日には、今度は検察庁がアレバロのMSに対して政党要件を不正に取得したとして政党資格停止を発表した。これに対して国内の有識者や有権者らは、腐敗アクターと彼らの支持を受けるジャマテイ政権による検察など司法と癒着した見苦しいまでの選挙への干渉、と当局を批判した。同日、数千人もの市民が首都で検察庁に対して担当検察官の解任と憲法遵守を求める抗議活動を行った。結局、7月14日に検察は、捜査は続けるものの選挙には干渉しないという判断を行い問題は収束したが、こうした相次ぐ司法の行動に、国際社会も含めてグアテマラ選挙への懸念が表明された。

### (3) 決選投票（8月20日）

最高裁や検察など司法がアレバロ候補とMSに対して干渉すればするほど、世論調査ではアレバロ候補の人気と支持が上昇するという皮肉な結果となった。候補者同士の政策論争などはほぼなく、メディアでは「改革者アレバロ VS 腐敗司法当局」の構図で連日報じられた。

こうした状況のなか、対立候補トレスの存在感と支持は高まらなかった。地方農村部や都市リベラル層の受け皿として左派を標榜したが、内実は、党創設時の左派的政策を捨て、保守と親和性の高い宗教保守層の票をねらって福音派の牧師を副大統領候補に据えたり、直近の歴代汚職政権と「汚職協定」（Pacto de Corruptos）とも揶揄される裏合意を結んで連立与党を組んだことなどで、リベラルでもなければ、反汚職の受け皿にもなり得なかった。トレスは決選投票において、前回選挙以降に個人的に親交のあったジャマテイ大統領と協定を結び、反アレバロのジャマテイら既存政党からの支持を受けていたと言われていた。また、グアテマラ政治では国軍・退役軍人らの影響も少なからずあるものの、今回は与野党各候補に支持が分裂したと言われている。

8月20日の決選投票（写真2）は、即日開票の結果、アレバロ候補が勝利した。会見に現れたアレバロ次期大統領は有権者に感謝の意を表すとともに、民衆と民主主義の勝利を、父親のファン・ホセ・アレバロ大統領就任時に使われた「グアテマラの春」を用いて、「グアテマラの新しい春」を強調した。

国内紙プレンサ・リブレによれば今回のアレバロの勝利には5つのポイントがある。(1) 国民の60%にあたる1000万人が貧困にある一方で、有権者の政治家などに対する根深い汚職に対する怒

りと撲滅への期待、(2) 既存の政治家に嫌悪している若者からの支持、(3) ソーシャル・ネットワークを最大限利用した選挙戦、(4) 司法・検察のアレバロと MS への妨害が有権者の耳目を集め、選挙期間を通じて「当局 VS アレバロ」の構図になった結果、薄まった対立候補の存在感、(5) 有権者が根強くもつトール候補に対する汚職、権威主義的、野心家という負のイメージ、が挙げられている<sup>3</sup>。

SNS での政治活動について、今回、特筆すべき点としては在米グアテマラ人でネットの語学学習サイト「Duolingo」の共同創設者兼 CEO のアン (Luis von Ahn) 博士によるアレバロ支援が挙げられよう。今回、個人としてアレバロ候補への支持を表明した。当然 SNS を使った選挙戦略も支援しており、SNS との親和性が高い若者への影響力があったと言われている。



写真2 決選投票の投票所の様子 (2023年8月20日 サカテペケス県サン・アントニオ・アグアス・カリエンテス市内にて筆者撮影)。

<sup>3</sup> “Cinco claves para entender la victoria de Bernardo Arévalo en Guatemala.” *Prensa Libre*, 21 de agosto, 2023.

### 3. アレバロ新大統領の政策と新政権が直面する問題

アレバロ新大統領と社会民主主義を唱えるMSには、3本柱と言われる政権公約がある。(1) 看板政策である汚職・無処罰対策（法改正への早急な対策、制度改善、増員などによる警察能力の強化など）、(2) 社会インフラの拡充（新規教員養成や教育制度の改善、病院拡充など公的保健医療の改善、貧困層向け支援）、(3) 経済政策では内外の投資呼び込みと（公共事業による）雇用対策、職業訓練の拡充、道路など経済基礎インフラの改善である<sup>4</sup>。それらを、参加型民主主義を通じて国民とのコンセンサスを得ながら実施していくと主張してきた。ただし、参加型民主主義はこれから制度を作り上げると言う<sup>5</sup>。

新政権と新与党には問題が山積している。検察から党設立時の党員数の不正などの容疑で捜査を受け、今後政党としての活動は認められない見込みである。同党から選出された国会議員は無所属扱いで政治活動を強いられる。そもそも国会（160議席）では、汚職アクターとのつながりのあるジャマテイ大統領のバーモス党（改選51議席で第1党）など、複数の既存政党との連立が不可避である。そして、アレバロやMSへの妨害をしてきた司法では、憲法裁判所判事や検察長官の任期が残っている。アレバロはボラス検察長官などに対して「辞任を促す」と語っているが、同長官は辞任しない旨明言している。司法や立法と対立が続けば、行政府から行政権限のみでいかにして、司法・検察を改革し、汚職や無処罰を撲滅できるのか疑問は多い。

父親ファン・ホセ・アレバロ大統領の志を継いで二度目の「グアテマラの春」を実現できるのか、それとも司法や立法との対立が続き政策実現が困難になるなかで行政権限を中心に政策を進め、さらなる亀裂と対立によって内政の不安定化を招くのか、アレバロ次期大統領の手腕が試される。

（なかはら・あつし／ホンジュラス国立フランシスコ・モラサン教育大学）

<sup>4</sup> Karla Arévalo, “¿Qué ofrecen Bernardo Arévalo y Sandra Torres de ganar la presidencia de Guatemala?” *Voz de America*, 31 de julio, 2023.

<sup>5</sup> “Entrevista con Bernardo Arévalo, ganador de las elecciones presidenciales de Guatemala.” *CNN Español*, 21 de agosto, 2023.